

地域みんなで創り上げる放課後の学校 コラボ・スクール「女川向学館」

<http://www.collabo-school.net/>

女川町教育委員会、女川学力向上委員会、学校、保護者など地域の方々と、特定非営利活動法人NPOカタリバ、遠方からの寄付者が協働し、コラボ・スクール「女川向学館」ができました。

【名称】女川向学館(※女川第四小学校三品校長が命名)

【目的】

- 1) 女川町の「港」の発展と、「向」学心を持つ児童生徒の育成を願い、名称を「女川向学館」とし、まなび舎のなかで共に自学自習できる環境を整備する。
- 2) 震災により、学習環境が十分とは言えない児童生徒のまなびの場を保证するとともに、向学の精神を培う。
- 3) 民間の支援により、児童生徒の学習をより豊かにすることによって、学習習慣の定着と、基礎基本学力がしっかりと身に付くように支援する。
- 4) 児童・生徒1人1人が、志を持ち、目標に対して努力できる人材に育つよう支援する。

【主催】特定非営利活動法人NPOカタリバ(代表理事:今村久美、本部:東京高円寺)

【開校】2011年7月4日

【場所】女川第一小学校校舎1F(5教室+自習室)

【生徒数】小中高校生 約230人(小学生90人、中学生110人、高校生30人)※町内小中学生は約530人

【職員】①地元の塾講師 7人 ②職員 8人 ③ボランティア 6~8人

【授業日】月曜~土曜 16:00~21:30(指導教科は5教科、土曜はそろばん教室を実施)

【授業料】2011年度無料、12年度より運営費の一部を自己負担(月額3000円~5000円)

※運営費のほとんどは全国からのご寄付と文科省の補助金で賄われています。



女川向学館

①震災で失われた「家庭学習」の場を守り、基礎学力の向上に努めます。



震災前は女川で塾を開いていた塾講師、全国各地から駆けつけたボランティアやスタッフが協力し、子どもひとりひとりの学びを応援します。震災で落ち込んだ学習時間は、開講後、増えました。(右のグラフ)

②多彩なカリキュラムで「未来を切り拓く子ども」の育成を目指します。



震災を経験し、「町を復興したい」「人の役に立ちたい」と志す子どもたちのために、主要教科以外のプログラムを実施しています。小中学生対象では、外国人講師による英会話や学者やプロによる理科工作教室(写真⑤)など、高校生は、より実践力を身に付けてリーダーとなれるように、商店街とコラボした「地域活性化プロジェクト」を高校生が企画実施するなど、プロジェクト型学習を行っています。(写真⑥は商店街でのキャンドルイベントの様子)



③大人たちが連携し、子どもがより安心できる居場所をつくります。

子どもにとって向学館は、お兄さんお姉さんが見守ってくれる「安心できる居場所」となっています。先生や親には言えない悩みを打ち明けることもあり、そうした気になる情報は、教育委員会や学校、スクールカウンセラー、各支援団体で作る「女川学びの町づくり実行委員会」で共有し、協力して対応しています。また、学校での授業をサポートするなど先生方との交流を活発化し、学校との連携を図っています。(写真⑦はボランティアと生徒、⑧は中学校での夏季休暇補習「まなび舎」の様子)

